

地学の切手



第7回  
世界石油会議  
記念切手

P. Q

世界石油会議はその目標として、国際的規模で石油の科学および技術を鼓舞する。石油産業が遭遇する科学的技術的問題を討議する機会をもつ。さらに研究上の経験とその実際の応用の成果とを自由に交換することなどをかかげており、第1回大会が30数年前にロンドンにおいて開かれた。戦後には、第4回会議が1955年ローマで、第5回会議が1959年ニューヨークで、第6回会議が1963年フランクフルトでと4年毎に開かれ、第7回会議は1967年4月2日から8日にかけてメキシコシティで65カ国、約5,000人が参加し、「人類の福祉のための石油」のスローガンの下に開催された。日本からの出席者は93名である。

第7回会議の非常に大きな特色は、前回のフランクフルト会議が学術討議の場所であるとともに石油業の利益が前面に押し出され、会期中に時のアメリカ大統領ケネディが乗り込んで来て講演を行ない、国際的石油企業体の利益や宣伝の色彩が濃厚だったのに反省してか、純粋に学問的および技術的な会合になるように、周到な配慮が加えられたことである。会議には約400の論文が発表討議されたが、このうちわけをみると、開発

および生産、精製および石油化学、技術および輸送、石油製品の用途が4:2:2:2の比率である。このうち日本から提出された論文は17だった。また提出論文の60パーセントはアメリカ合衆国からのものであることは、現在世界の石油産業に関する学術技術がアメリカによって指導されていることを示すのであろう。

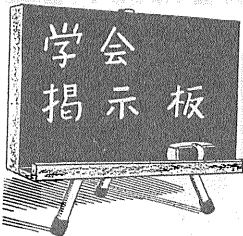
前回会議と今回との間の特色は学術技術の進歩がいちぢるしいことである。例を石油資源の問題にとってみると大きくとり上げられたものに、タールサンド、オイルシェール、大陸棚の石油がある。タールサンドはカナダのアサバスカが主体であるが、その外にアメリカ、ペルー、ベネズエラ、トリニダード、バルカン、フィリピンにもあり、世界石油消費量の増加にともなってその必要性が増し、1985年には全世界生産量の3パーセントを占めると期待されている。そのほか既開発油田に対する新しい採油法に関する研究発表が目立っている。

日本は第4回に初めて顔を出した程度で、第5回には1論文が割り当てられたただけであった。今回は論文数17、大会副議長、学術分科会座長3名、副座長3名と、その進出は飛躍的である。またその後4年間の副議長4人のうち1人として三菱石油KK社長藤岡信吾氏が選任された。議長はアメリカ副議長はイギリス、フランス、メキシコ、日本である。

1971年会議開催地としてモスクワと東京が立候補し、6月13日からモスクワで開かれることとなった。その次の1975年会議は東京で開かれる見通しが強い。いずれにしてもマンモス化した会議、資本と学術とのかね合いがこれからの問題となるであろう。

切手は1967年4月2日発行され、青と黒のグラビヤ印刷で石油塔が画かれている。

(資料は世界石油会議日本国内委員会会報第10号および第7回世界石油会議報告講演会記録によった。)



・日本岩石鉱物特殊技術研究会

1. 昭和45年7月29日(水)~31日(金)
2. 第14回研究発表会 (金属、非金属、構造地質、耐火物等の薄片、研磨片の作成に関する講演会)

3. 九州大学理学部地質学鉱物学教室 (福岡市箱崎町)
4. 日本岩石鉱物特殊技術研究会
5. 川崎市久本135 地質調査所内 Tel (044) 86-3171

・地学団体研究会

1. 昭和45年8月1日(土)~5日(水) 総会および地質巡検
2. 第24回地学団体研究会松本総会
3. 信州大学理学部 松本市旭3丁目
4. 地学団体研究会
5. 松本市旭3丁目1-1 信州大学理学部地質学教室気付地学団体研究会総会準備委員会

・岩石力学会議

1. 昭和45年9月21日~25日
2. 第2回国際岩石力学学会会議

3. ベオグラード ユーゴスラビア
4. ユーゴスラビア岩石力学および地下構造学会
5. Sekretarijat II kongresa Medunarodonog drustva za mehaniku stena  
Institut za vodoprivredu "Jaroslav Cerni"  
Bulevar vojvode Misica 43 Beograd-Jugoslavija

・IMA-IAGOD Meetings '70

1. 1970年8月25日(金)~9月2日(水)  
IMA-IAGOD Meetings '70 (国際鉱物学連合第7回総会および国際鉱床学連合東京・京都会議)
3. 東京会場 (8月28, 29日) 経団連会館 千代田区大手町  
登録は8月27日より同会場で開始します  
京都会場 (8月31日~9月2日)  
国立京都国際会議場 京都市左京区宝ヶ池
4. 日本学術会議 国際鉱物学連合 国際鉱床学連合 (共催) 日本鉱物学会 日本岩石鉱物鉱床学会 日本鉱山地質学会 日本鉱業会
5. 台東区上野公園内 日本学術会議事務局調査課  
Tel (03) 821-3751  
新宿区河田町8地質調査所内 IMA-IAGOD Meetings '70  
幹事事務局 (Tel (03) 341-7131 内線58 小野寺)

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者  
5. 連絡先 (掲載項は原稿到着順)